

うめナビ

2017.5
Vol.62

家から地域社会と地球環境に貢献 省エネ性能に優れた高性能住宅 「クラージュ」を開発・販売

アエラホーム

国土交通省と経済産業省により、平成25年10月に改正・施行された省エネルギー基準をらくらくクリアし、冷暖房費、CO₂排出量66%削減を実現する高気密・高断熱・高遮熱住宅「クラージュ」を販売しているのが、アエラホーム（千代田区九段南、中島鷹秀社長、03-3512-2311、<http://www.aerahome.com/>）である。

「クラージュ」は、屋根までアルミ箔面材付き遮熱断熱材ですっぽりと包み込む外張断熱に加え、屋根・壁には発泡ウレタンフォームによる吹付断熱を施した「外張W断熱」工法を採用。各種設備も含め、家全体で省エネを実現する。

「クラージュ」の開発とその普及促進活動が高く評価され、今年3月、同社はフジサンケイグループ主催の「第26回地球環境大賞」において「奨励賞」を受賞した。また、日本地域開発センターが省エネルギー性の優れた住宅を表彰する「ハウス・オブ・ザ・イヤー・イン・エナジー」においても、平成26年「クラージュ（プレミアム仕様）」の大賞受賞を含め、4年連続受賞と第三者機関からも高い評価を得ている。

現在、住宅における断熱・気密性能は、地球環境や省エネ性だけでなく、住む人の「健康」面への効果も注目されており、高齢者や障がい者、子育て世代の健康の維持・増進といったスマートウェルネス住宅の観点からも重要な要素になっている。同社では、こうした世の流れ



同社の省エネ技術は第三者機関からも高く評価されている



全館空調換気システム住宅「クラージュ エアリア」



外張 W断熱住宅「クラージュ」

れや「より良い家を、より多くの方に」という基本方針のもと、「環境設計の家」の代表でもある「クラージュ」の普及促進を続けるとともに、今後もさらなる価値の提案に邁進していく。

100年を超える実績 「音楽の種を蒔く。暮らしに喜びと豊かさを」 それが菅波楽器の願いです

菅波楽器



グランドピアノの豊富なラインナップには定評がある

「これからも、『音楽のトータルコーディネーター』としてお客様のために進化し続けていきます」と菅波社長は力強く語る。

菅波楽器（本社：港区麻布十番、菅波康郎社長、042-722-6342（町田本部）、<http://www.suganami.com/>）は、明治初期、琴の生産で知られた広島県福山市で和楽器の製造販売を開始した。以降、和から洋へと取扱う楽器は変わり、楽器の販売を軸に首都圏に進出し、音楽教室、技術サービス、イベントコンサート、地域音楽事業に力を注いできた。鍵盤楽器については電子ピアノからアコースティックピアノまで取扱い、初心者からプロの演奏家まで、それぞれの機能や特性に合わせた高い専門性と技術力で対応している。

特にグランドピアノのラインナップが豊富で、「多数のピアノを試せる」と来店されるお客様にも大変喜ばれている。質の高いピアノを提供することはもちろん、音場改善の提案、工事も請負って



同社の専門スタッフが楽器のリペアを行う

また、創業から140年にわたり「常にお客様の気持ちに寄り添い、音楽を楽しんでいただきたいながら生活を豊かにする。そんな人が、一人また一人と増えていって地域社会が豊かなものになってほしい」と考え、音楽教室の発表会をはじめ、一流アーティストやオーケストラなどを招いたコンサートやプロデュース、学校の教材・楽器などの提案や指導者への講習会、吹奏楽部などのクラブ活動支援といった地域の音楽普及事業にも貢献している。

おり、音の質や強さを追求し、奏者の総合的な演奏力を高められるようバックアップしている。ピアノの調律・再生、管楽器のリペアなど、専門の教育を受けたスタッフが対応。豊富な知識と経験に裏打ちされた確かな技術力が幅広い支持を得ている。

												合計 270先
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------------

※本誌は、城南信用金庫のお取引先に配布する他、商社、百貨店、スーパー、メーカー、マスコミ、大学等にもお届けしています。

産業・生活分野の多様な製品を彩る あらゆる塗装ニーズに対応可能 工業塗装のスペシャリスト

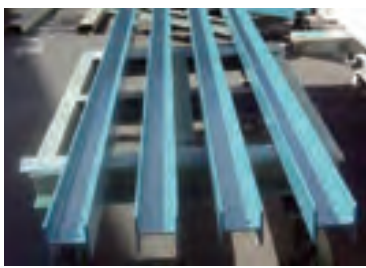
東名通商

東名通商(愛甲郡愛川町中津大塚下、吉野才次郎社長、046・286・0713)は、主に金属製品、非鉄金属製品および塗料・塗料関連機器の販売を行っている。

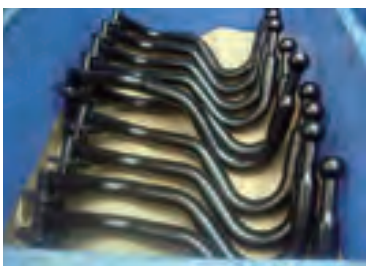
吉野社長は、昭和31年から塗料・塗料機器・関連資材の総合商社に勤務した後、昭和48年横浜市にて塗料販売を開始した。昭和52年には日本ペイント(株)の販売店となり、昭和54年より現在の塗装業を始めた。塗装業開始から今年で業歴38年を数え、大手企業を含め常時約200社と取引をするまでになっている。塗料販売の経験を活かして、使用目的に合わせた塗料を選択し、同社職人のすぐれた技術で施工することによって、細部にわたりお客様のニーズにお応え

できるといふ高評価・信頼の厚さにつながっている。

また、同社は本社工場のほか5つ所有する工場に、熱風自動乾燥機や間口7m・高さ3.55mの大きな乾燥炉、長さ50mのコンベアラインなど充実した設備を揃えているため、焼付金属塗装、ハンマーシ塗装、建築・機械塗装、FRP塗装、プラスチック塗装といった塗装全般を請け負うことが可能である。自動車各部品などの小物から、大型塗装まで対応でき、さらに塗装ブースをカーテンで仕切り、吸引パネルの近くで塗装するなど異物混入対策も行い、品質管理を徹底している。



材質もサイズも、さまざまな工業塗装に対応



充実した工場設備

工業塗装は、単に製品に色を付けるだけではなく、製品表面を腐食・劣化から保護し、色彩や光沢、手触り、模様などデザイン的にも製品の付加価値を高めるものとして、産業・生活あらゆる分野に欠かせない。これからも、永年培ってきた同社のノウハウに日々の努力を積み重ね、お客様によりよい品質の製品をご提供していく。

永年積み重ねたプラスチック加工の技術力 透明度やデザイン性、アクリル材の可能性を活かした製品開発

友成工芸

友成工芸(世田谷区池尻、友成哲郎社長、03・3413・7050、<http://www.tomonari.co.jp>)は、

昭和27年1月創業のアクリル加工業者である。創業当初は、工業製図用のプラスチック定規制作を行っており、ミクロン単位の正確さと長期使用に耐える彫刻技術が要求される製品を長く取扱ってきたため、確かな技術力と上質な製品へのこだわりは強い。

プラスチック類の中でも特に透明度が高いアクリル材は、無色透明で強度もあり、素材の特性を活かしたデザイン性のある形状に加工することが可能なので、現在では主に、トロフィー・POP・商業用ディスプレイ・そして自社ブランド商品である「mas/mas(マスマス)」を製造している。



透明アクリル製酒升「mas/mas(マスマス)」。3mmの薄い縁加工や彫刻デザインに、同社の技術力が光る

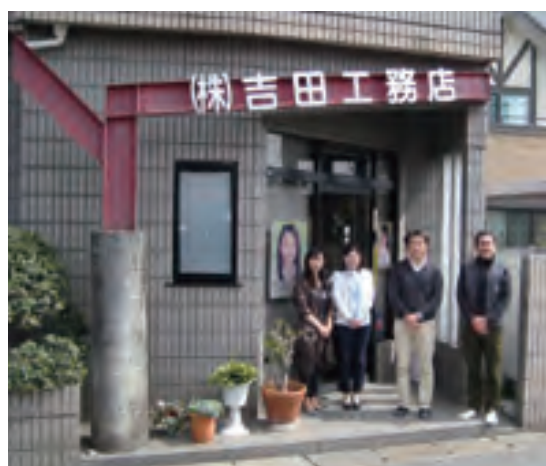
トロフィーに関しては、法人クライアントからの依頼が多く、社内イベントを始め、ゴルフコンペや各種式典の表彰トロフィーなどに幅広く受注している。また、自社ブランド製品「mas(マスマス)」は、非常に珍しい「透明アクリル製酒升」である。従来の木製酒升は縁が分厚く女性には飲みづらい形状であったが、同製品は、縁の厚みを3mmと薄く加工して飲みづらさの問題を解消した。さらに同社彫刻技術によって、オリジナルデザインの彫刻を2面に施したオンリーワンの製品に仕上がり、近年の日本酒ブームも相まって国内外から高い評価を受けている。確かな技術を有する同社だからこそ、他社には真似できない加工が可能であり、「今後もさまざまな企画・デザインにより、アクリル素材の可能性を広げていきたい」と社長は意気込みを語る。



同社の手がけたさまざまなアクリルトロフィー

木曾ひのきなど厳選素材と 独自設計で創る「いろいろどりの家」 工務店だからできる縛られない家づくり

吉田工務店



右から2番目が吉田伸幸社長

宅部門優秀賞」を獲得した。その技術力の高さは業界でも一目置かれる存在だ。「家づくりにおいて一番大切なこと。それはお客様と真摯に向き合い、同じイメージを共有することです」と吉田社長は語る。工務店の強みは、ハウスメーカーの建てる企画住宅のようない決まりが何もないことである。お客様のライフスタイル・考え・こだわり・オリジナルリテイヤーをしっかりと共有させていただき、望まれるもの以上の満足を提供することを第一に、真摯に家づくりに取り組んでいる。

吉田工務店(稲城市東長沼、吉田伸幸社長、042・377・2017)は昭和40年の創業以来、日本の伝統工法である木造在来工法を主に、関東一円で新築施工・増改築・リフォームを手がけている。木曾ひのきををはじめ、今注目されている東濃ひのきや紀州ひのきなどの厳選素材と、一級建築士でもある吉田社長を中心とした選りすぐりのスタッフが独自設計で創る「いろいろどりの家」。一つとして同じイメージはあり得ない、家に対するさまざまな想いをお客様とご一緒にいろいろとっていく。設計・施工だけでなく、資金・税金の相談からアフターフォローまで、手厚い体制を整えお客様の夢の実現をお手伝いしている。

同社の活動は建築業界でも高い評価を受け、平成24年6月には東京都建築士事務所協会のコンクールにおいて「戸建住



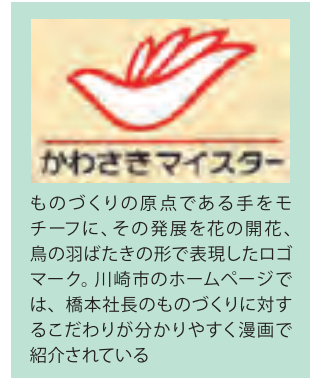
独自設計の木造住宅施工例

初めての電話はかけづらいものですが、ホームページ(<http://yoshida-c.com>)を見たお気軽にお声がけください。メール(info@yoshida-c.com)は24時間受付しております。

昭和10年創業、親子3代続く内装仕上工事業 『かわさきマイスター』の 匠の技術を継承

内装ハシモト

川崎市では、平成9年度より「手」や「道具」などを駆使し、極めて優れた技術・技能を発揮して産業の発展や市民の生活を豊かにする現役の技術・技能者を、市内最高峰の匠「かわさきマイスター」に認定する制度がある。



平成24年度、その「かわさきマイスター」として認定されたのが、内装ハシモト(川崎市中原区上小田中、044・788・7292)の代表取締役である橋本一成社長だ。

平成28年度現在で91名が認定を受けているかわさきマイスターのうちでも、内装の職人はわずか3名と極少数となっている。

同社は昭和10年に蒲田の地で創

業し、現在の橋本社長で3代目になる老舗内装工事業者である。

橋本社長は大学で経済学を学んだ後、家業の内装工事業に入ってから、77歳の現在も、現場で内装仕上作業に携わっている。多様な技能と伝統的な技法の応用、新製品の施工法の研究が要求される現場において、若手の育成にも率先して取り組んでおり、講習会指導や技能検定員を続けている。同社が手掛ける内装には妥協がなく、戸建てからハウスメーカーの 아파트、ホテルの客室まで、幅広く受注を獲得している。



自身の仕事に情熱と誇りを持つ橋本一成社長

内装業界でも職人と呼ばれるような熟練の人材が少なくなっている中で、同社は確かな技術を継承している。「ご注文いただいた内装でお客様の笑顔が見られることはこの上ない喜びです」とやりがい語る橋本社長のもと、これからも次代に向けた技術継承と業界の発展に貢献し続けていくだろう。

会場選びから会費の管理まで 幹事の苦勞を「同窓会.com」が代行！ 面倒なく昔の仲間と楽しく集える

Biz Rise

「同窓会.com」を運営するBiz Rise(大田区南千束、小林肇社長、03・6315・0398、doso-kai.com)は、感動の場を提供することを理念として、同窓会幹事代行サービスをメインにさまざまなイベント事業を行い、また、イベントの会場利用によって、地域貢献にも結びつけている。

人とのつながりが見直される世

の中で、同窓会のニーズは年々高まっている。しかし、同窓会の幹事は一苦勞である。会場選びから会費設定、ハガキ送付や当日の受付、会費の管理など、せっかくながら仲間たちと談笑する時間もなない。手間を考えたら、「誰かがやってくれば…」と、いつくるかわからない招待状を待つしかない。

「同窓会.com」の幹事代行サービスは、そんな面倒をすべて幹事の代わりに行う仕組みだ。当日は幹事も同窓生の一人として、呑み、食べ、仲間たちと語る懐かしい時間を堪能することができる。

参加者が予定より少なくても、当日ドタキャンがあっても、幹事の負担



会場選びやしおりなどの用意も「同窓会.com」にお任せ!



次はあなたが幹事になって、「同窓会.com」で懐かしい仲間と楽しい時を...

は何もなく、一人の参加者として受付で会費を払うだけ。お金のリスクがない点は非常に安心である。

ホテルやレストランを会場に、可愛いデザインの名札やしおり、恩師への花束贈呈や写真撮影サービスも用意されている。気がつけばBGMも、学生の頃の懐かしいあの曲。

すべて一任なのに会費だけでビジネスが成り立つのかと思うが、小林社長は「確かに利益が出ない会もありました。ただ、感動の場に立ち会えるのは私たちも嬉しいことです。中学の同窓会を開催したイベントを依頼されることもあります。また、参加者や会場の方から、本当にありがとうございます。こちらが仕事ですが、ありがたい言葉です」とやりがいを語ってくれた。

スタイリッシュで機能的、防災まで考えた 「快適・安全・エコ」な企画デザイン! 暮らしのお手伝いはお任せください

DIME

DIME(横浜市神奈川区三枚町、新津英一社長、045・476・1113、http://www.dime-ld.jp)は、電気設備工事、店舗企画、設計デザインを行う会社である。

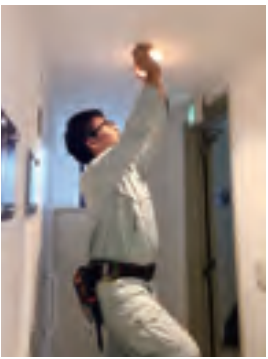
新津社長自身の豊富な知識と経験を活かして部材などの開発製造も手がけ、自ら海外に向いて打合せや試作を重ね、試行錯誤しながら製品化を実現した。部材だけにとどまらず、環境を考えたLEDライティングの自社開発、製造販売も行っており、工事を含めた事業を拡大している。

加えて、頻発している地震に備えた各住戸への「感震ブレーカー設置」の推進にも尽力している。感震ブレーカーとは、震度5以上の揺れを感じし自動的にブレーカーを落とし電気を止め、出火や停電復旧時に発生する火災を未然に防ぐ装置である。分電盤に外付けするタイプで、設置工事も簡単だ。

新津社長の気さくな人柄や同社の技術力、また、電気工事以外の小



同社のリフォームも、もちろん自社で設計デザインを行った



使いやすく洗練された空間に仕上げる技術力

さなお困りごとにも容易に解決してくれるので、地元や常連のお客様から「社長に相談したら、なんとかしてくれる」という絶大な信頼を得ている。高齢のお客様からの家電購入に関するお悩みなど、本業以外の相談にも乗る。

さらに、同社はクリニックや店舗の企画、設計、デザインも受け、スタイリッシュかつ機能性を重視した仕上がりはセンスがいい。お客様の要望を忠実に実現したうえでの、+αのご提案は評判が高く、口コミで受注が増えている。快適に安全に、そしてエコに毎



『OKINAWAN Silk』を世界へ オンリーワンのものづくりと メイドイン沖縄へのこだわり

沖縄UKAMI養蚕

沖縄UKAMI養蚕(国頭郡今帰仁村字平敷、仲宗根豊一社長、09800563367、<http://www.okinawa-ukami.co.jp/>)は、沖縄県出身である

社長の「故郷に貢献したい、地域を盛り上げたい、沖縄に恩返しをしたい」という熱い想いから、廃校となった中学校の校舎や耕作放棄地などを活用し、日本の発展に貢献した歴史ある養蚕業を展開している。沖縄の地の利や優位性を活かし、従来

の蚕とは種類の異なる「純沖縄エリ蚕」の大規模養蚕に成功した。

エリ蚕から採れる繭を、非繊維分野である化粧品や健康食品などに添加する原材料としての商品(OKINAWANシルクパウダー)開発から製造販



Vilanje

『OKINAWAN Silk』を活用した新スキンケアブランド『Vilanje』



産学連携のもと、新製品の開発・研究を進めている

を立ち上げ、5月には新商品を発売予定である。

今後は、さまざまな異業種との融合・コラボレーションを視野に入れ、『OKINAWAN Silk』を世界へ発信

するとともに、沖縄でのものづくり産業の裾野を広げ、地域創生につながる地場産業への成長をめざしている。

琉球の歴史が息づく「知花織」 花織の里から心癒される 布をお届けいたします

知花織事業協同組合

知花織事業協同組合(沖縄市知花、小橋川順市理事長、098・9211187、<http://www.chihana-hanaori.com/>)は、花織の里「知花」で永年受け継がれてきた技法を用い、古

と現代の感性で手織る「知花織」(経済産業大臣指定・伝統的工芸品)の継承・販売を行っている。

知花織とは、沖縄市知花、登川(のぼりかわ)地域などを中心に伝承されてきた織物技術のひとつである。戦

争などで、織物技術の継承や花織衣装の着用が困難な時期もあったが、平成20年に沖縄市が中心となり知花織を蘇らせる試みがスタートし、現在は同組合の研究によって、織手の育成が図られるなど新しい息吹が吹き込まれ受け継がれている。

知花織は、模様が縦方向に連続して

浮く「経浮花織」(たてうきはなおり)と刺繍のようにな糸模様の浮く「縫取花織」(ぬいとりはなおり)が大きな特徴で、



「知花織」の名刺入れなど、現代の生活にもなじむ製品づくり

また、織手の豊かなアイデアは模様に留まらず、リゾートホテルの制服やテールセンター・ネクタイ・名刺入れなど現代の生活にもマッチする製品開発にも力を入れ、沖縄市を代表する織物として、国内外に広く発信している。



織手を育成し、手織の伝統技術「知花織」を後世へ継承していく

この2つの技法が今日まで守られ継承されて地域文化を形成している。

五穀豊稔を願う奉納舞踊などの衣装から地域の人々に親しまれてきた知花織は、伝統を守りながらも、新たな技法を取り入れた和服など、身近な暮らしの中の伝統的工芸品として愛用されている。

オーダーメイドのシャツとワンピースで 一生の思い出に残る 「かりゆしウエディング」

マンゴプラス

かりゆしウエアの製造・販売を手がけるマンゴプラス那覇市具志、植田ひとみ社長、098・987・1215、<http://www.mango-kariyushi.jp/>)は、県内のデパートや衣

料品店への卸売業務だけでなく、県外や法人に対する卸売・販売なども行っている。

かりゆしウエアは、沖縄の暑い夏を快適に過ごすとともに沖縄観光をPRするため、昭和45年に「沖縄シャツ」の名称で発売されたのが始まりで、その後、名称が現在の「かりゆしウエア」に統一され、平成12年に開催された沖縄サミットを契機に全国的な認知が進んだ。沖縄のトロピカルなイメージや県の伝統工芸品の柄をあしらったデザインの開襟シャツが主流だった当時

から、最近ではボタンダウンなどデザインやスタイルも多様化し、沖縄では夏季のビジネスウエア以外に婚礼や葬儀での正装としても認められている。沖縄方言「かりゆし(嘉利吉)」には、「めでたい」や「縁起の良い」といった意味があり、最近では県外の方が沖縄県内で結婚式を挙げる際に、出席者の方々へかりゆしウエアの着用を勧めたり、特別な引き出物として贈るケースも増えてきている。

同社では、そういった県外の方々のニーズに答える「かりゆしウエディング」を提案しており、結婚式へ参列する方向けのシャツやワンピースのオーダーメイドも承っている。大切なご家族やご友人と一生の思い出に残る華やかな「かりゆしウエディング」はいかがでしょう？



結婚式参列の皆様にお勧め!



沖縄リゾートの開放感あふれる「かりゆしウエディング」